

# 一人暮らし高齢者の困りごとに対応、 昼食会の手伝いも

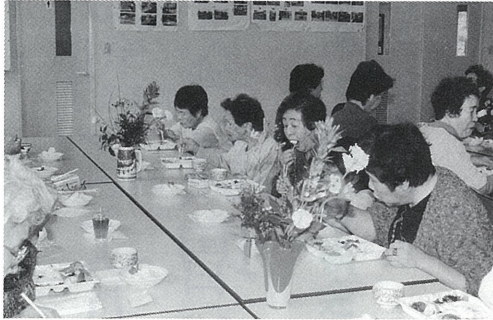
横浜市磯子区 上中里団地きらく会

## 8名の班長が担う「友愛活動員」

「きらく会」には友愛活動員が8名いて、会の役員である班長のみなさんをお願いしています。それぞれ自分の班の班員、約15名の見守り活動、支え合い活動を担っています。

また、友愛活動員として団地自治会の組織

である「福祉の会」の構成員にもなっていて、民生委員や日赤奉仕団、ボランティアの方々と一緒に、月1回「一人暮らし高齢者の昼食会」の手伝いも行っています。「福祉の会」は団地版社会福祉協議会のこと、地区社会福祉協議会



一人暮らし高齢者の昼食会

に協力しています。

## 困りごとお手伝いの発足と現在

困りごとに対するお手伝いの仕組みの発足は平成8年、民生委員の提唱で始まりました。生活の中で公的福祉の対象にならない一人暮らし高齢者のちよつとした困りごとを、自分

たちでもできる範囲で支え合おうということとです。困りごとの内容は、家具の移動、電球の取り替え、水道栓パッキン修理、釘を打つ程度の大工仕事、家具の転倒防止などです。

自治会から団地全体に呼びかけていたところ、「私なら電気仕事、大工仕事ができる」などと100名前後の協力者が名乗りでくれたのです。準備期間を経て、平成10年から活動を開始しました。

具体的な活動方法としては、班長が自

分の班員と花見など行事の時、会費集金

や旅行申込みの時などに話し合っていて、それとなく見守り、困りごとの受付を行っています。年間で15件ほどあります。

活動に取り組んで15年以上過ぎましたが、それほど大変でないということが担い手の方々の感想です。それは困りごと年間15件ほどですから、月にして担い手1人1件にもならないこと、昼食会の手伝いも組織的に対応していますので、都合がつかなければ無理しなくてもいいため、負担感が少ないのだと思います。

利用者からは、担い手はもちろんのこと、きらく会にも「ありがたい」という感謝の言葉をいただいています。

(総務 大石 裕)



蛍光灯交換